

## 新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく願い申し上げます。

新型コロナウイルスの医療機関への影響は、感染力の増大と毒性の低下により新たなステージに入りましたが、院内でクラスターを発生したときの影響力は依然として大きく、他の業種とは全く異なり医療従事者へのストレスは強いままかと存じます。今年はいざなぎ年ですが、癸卯（みずのと・う）という干支で、これまでの努力が花開き、実り始めることを表すそうです。医療従事者のみ制限の強い状態が続いておりますが、皆で支え合いながら頑張っている状況を乗り切っていきましょう。

昨年7月よりこの伝統ある心血管カテーテル領域の代表団体である CVIT の理事長を拝命し、新メンバーによる理事会、委員会も活動を開始し、これから立ち上がる大きな課題の解決に立ち向かっていこうとしておりますので、何卒ご支援、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。昨年の活動実績、今年の活動の重点項目を一部報告させていただきます。

### 活動報告

- 1, CVIT の専門医制度が新たに創設された学会認定・機構承認専門医として認められました。
- 2, IVL カテーテル、DCB 等新規デバイス承認時に CVIT が適正使用指針、ステートメント等を発出しました。
- 3, 「K616-7 ステントグラフト内挿術（シャント）」と「K616-8 吸着式潰瘍治療法（1日につき）」の主学会を獲得しました。
- 4, CVIT 誌インパクトファクター獲得に向けての活動、consensus document 4 編、review paper 11 編を出版しましたので、論文執筆時引用を忘れないようよろしくお願い致します。
- 5, NCD レジストリーから多くのデータ、論文を創出しました。
- 6, CVIT2022（伊苜裕二会長、パシフィコ横浜）がハイブリッド形式ながら久しぶりの対面形式で開催されました。

### 今年の活動重点項目

- 1, 医師の働き方改革に対するアクション：厚生労働省、マスメディアへの働きかけ、タスクシフト推進・遠隔医療など DX 活用
- 2, 新規デバイスの窓口をさらに拡大、新規技術の主学会獲得の働きかけ
- 3, いよいよ間近に迫った CVIT 誌インパクトファクター獲得に向けた活動加速
- 4, インターベンションの価値を高めるための広報・学術活動
- 5, CVIT-TV をさらに会員が興味をもって視聴するコンテンツとして発展
- 6, CVIT2023（横井宏佳会長、福岡 PayPay ドーム）開催、各地方会の活性化

令和5年元旦

一般社団法人

日本心血管インターベンション治療学会

理事長 上妻 謙